

環境審議会「循環型社会構築部会」報告

1 開催日時等

(1) 開催日時

- ・令和 7 年 1 月 21 日(火) 13:00～14:30
- ・令和 7 年 4 月 11 日(金) 16:00～17:30

(2) 開催場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウェストルーム

(3) 議題

- 【1/21】 1 循環のまち・ふくおか推進プランの振り返りについて
2 ごみ処理量の推計等について
- 【4/11】 1 第 2 期実行計画に掲げる施策について
2 目標値の見直しについて

(4) 出席者（出席者 8 名）

小出 秀雄	委員（部会長）	阿部 真之助	委員
中山 裕文	委員	大森 一馬	委員
久留 百合子	委員	平 由以子	委員
森 あやこ	委員	田中 綾子	委員（4/11 は欠席）

2 議事

(1) 事務局からの説明概要

「循環のまち・ふくおか推進プラン」の第 1 期実行計画の振り返りを行い、課題を踏まえて、第 2 期実行計画に掲げる具体的な施策について説明した。また、最終目標を前倒しで達成している数値目標・取組指標の数値について、第 2 期実行計画の策定に合わせた見直しを行い、新たな目標値について説明した。

(2) 主な意見と考え方等

【令和 7 年 1 月 21 日】

意 見	意見に対する事務局の考え方等
議題 1 循環のまち・ふくおか推進プランの振り返りについて	
地域コミュニティの課題があるなか、福岡市はマンションが多いため、マンションでの地域集団回収の推進や、実施していないところへの指導はできないのか。	子ども会が減少しているが、子ども会が辞めたところをマンションの管理組合や老人クラブなどが引き継いでやっているという地域もある。指導は難しい部分もあるが、地域の意見も聞きながら、取り組んでいきたい。
社会の状況は変わってきており、様々な回収方式があるので、拠点回収など、回収場所や品目を増やしてはどうか。地域集団回収の担い手は多くが高齢者であり根本的に見直していくべき。	高齢者の持ち出しが難しくなっていることは課題として認識している。現在、出しやすい環境づくりの検討を行っており、次年度以降、着実に取り組んでいきたい。
欧州では、CSR から CSRE に変わり、環境について何をしているかの開示と報告義務がある。福岡市でいち早く、表彰制度など、具体的な取組みを評価する制度があると目標を早く達成できるのではないかと思います。	—

意 見	意見に対する事務局の考え方等
議題2 ごみ処理量の推計等について	
推計は施策とリンクさせて行っているのでもいいと思うが、施策をどう考えるかが重要。古紙に関しても地域集団回収について書かれているが、回収の方式を高齢者向けのものにしていく必要がある。スーパーは回収の拠点として出しやすい場所なので、施策の中に地域の業者との連携を打ち出してほしい。	高齢者向けの回収方式については、いかに出しやすい方法を考えていくのが重要であり、しっかりと検討していく。スーパーとの連携についても、回収量など実態を把握できていないため、そこも含め検討していきたい
ごみの排出とウェルビーイングを切り離す、デカップリングの考え方が一般的になってきている。福岡市の推計量のベースは人口や事業所数となっているが、市内生産額や市内付加価値額などのウェルビーイングに関係する経済指標を入れた方がいいのではないかと。市内生産額の予測などが経済担当部局であれば、参考にするとうまい。そうすると、その数値が伸びている一方で、ごみが減っているなど、デカップリングを強調できる。	市内生産額については、市内総生産あたりのごみ量の比較などは行っていきたくて考えているが、市内総生産のデータは出るのが遅く、2年程度前の数字になるため、現計画では、参考値として扱っている。デカップリングの達成状況などを確認する上で重要な指標だと考えているため、今後も数字は確認していく。

【令和7年4月11日】

意 見	意見に対する事務局の考え方等
議題1 第2期実行計画に掲げる施策について	
プラスチックリサイクルの推進について、単に分別と言ってもなかなか伝わらないので、分別して出したものがどういうものにリサイクルされるのか、市民に理解してもらうためにもしっかりと説明していただきたい。	プラスチックの回収が促進されるよう、分別したプラスチックがどのように使われているのか、活用方法を示すなど、見せ方について工夫していきたい。
環境配慮型商品等の開発について、開発支援を進めるとのことだが、市民にも全く伝わっていない。もう少しPRされた方がよい。	—
地域集団回収について、高齢者が地域集団回収になかなか出せなかったり、雑がみの出し方について、どのように出しているのか理解されていないところがあるため、実際に高齢者の意見を聞き、提案していただきたい。	集団回収について、少子高齢化による担い手不足があるため、今後地域で出しやすい環境づくりをしっかりと検討していき、実現した際にはしっかりと周知した上で取組みにつなげたい。
事業者と連携した代替素材等の普及・促進について、協力する事業者が手を挙げやすいように、事業者への案内とあわせて、市民に対する広報もしっかり行うようお願いしたい。	—
廃食用油の回収について、回収・リサイクル後の活用先には余裕があるのか。	家庭から出る廃食用油の1割程度が資源化され、残りは廃棄されている状況であるため、回収量を増やしていく必要があると考えている。また、当面の間は活用先も問題ないと認識している。

意 見	意見に対する事務局の考え方等
指標の評価の見直しが必要な点があると思う。本当はごみがどれだけ減ったか、そのごみ出しに関するエネルギーや CO2 がどれだけ減ったかという成果指標が重要であり、そうなっていないものがあるため、計画とその進捗の管理の数字が対応できるような仕組みを少し考えてほしい。	—
環境局だけで出来ることは限られており、他部署との連携体制が必要と思う。体制をどのように取り、計画を実効性があるものにすることを考えてほしい。	—
今回提示された計画の内容が全体的に抽象的な表現となっている。例えば、強化という記載があるが、実際第 1 期のどの項目をどのように強化していくのか、具体的な表現があればもっとよいのではないか	どの部分を強化し、具体的にどうしていくという表現の仕方を、しっかり工夫していきたい。
議題 2 目標値の見直しについて	
数値目標のグラフは、人口が増えているにもかかわらず、ごみが減っており、デカップリングが達成されている状況だと思う。デカップリングを示す際は、人口だけではなく、経済指標、例えば市内総生産額が伸びており、経済がすごく活性化しているが、事業系ごみは減っている、というデータをつけてほしい。	表現について、検討させていただく。
ごみ袋へのバイオマスプラスチックの導入について、バイオマスでできているため焼却時の CO2 排出がゼロになるが、指標 11 に廃棄物処理における CO2 の削減目標があり、そことの整合性がとれているか、もう 1 度確認していただきたい。	現在のバイオマス配合ごみ袋は 25%配合である。今後バイオマスプラスチックの導入については、配合割合や枚数等、費用対効果も確認しながら指標への反映の仕方について、検討していく。

3 議事内容の計画への反映について

循環型社会構築部会における意見の計画への反映については、5 月 12 日の環境審議会総会での意見を踏まえて、原案策定過程において検討する。

なお、意見を反映した原案については、7 月開催予定の循環型社会構築部会にて審議予定である。